

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 5月 31日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12434

研究課題名(和文) 米国・国立衛生医学博物館所蔵の日本関連資料の調査

研究課題名(英文) Comprehensive research on Japan-related material culture collection at National Museum of Health and Medicine

研究代表者

伊東 章子 (ITO, AKIKO)

名古屋大学・国際機構・特任准教授

研究者番号：50390703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：米国・国立衛生医学博物館(National Museum of Health and Medicine、以後NMHM)は多数の日本関連所蔵品を有しているものの、これまでまとまった調査が行われておらず、所蔵品の詳細や資料的価値、点数などの詳細が全く把握されていなかった。本研究ではNMHMの日本関連所蔵品全品について現地調査を行った。そして、今後NMHMの所蔵品が医学史、科学史、軍事史、など多方面にわたる研究に活用されるよう、学術資料として整理・分析を行い、日英両語による目録を作成した。目録はNMHMのHP上で公開されることになっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究によると、米国内で保存されている日本の医学史・科学史分野でまとまった未整理資料が残されているのはNMHMが最後であった。残念ながら今回の調査で日本関連所蔵品の一部が紛失・破棄されている事実が発覚したが、詳細な目録が完成したことで今後の散逸を防ぐことができる。日本の近代化や科学研究、軍事研究などに関する資料や情報に対する需要は、国際的な科学史・医学史・技術史コミュニティ内で根強いものがある。今回NMHMの所蔵品を研究成果として整備・発表することで、日本で収集された資料を用いた研究が、米国はもちろん国際的に活発化することを期待したい。

研究成果の概要(英文)：The National Museum of Health and Medicine, USA possesses a rich collection of Japanese-related artifacts, however an indepth survey of the relevant material culture holdings had never before been undertaken. In this research project investigated all artifacts related to Japan to make a catalog. This thorough and comprehensive catalog will promote further research in the field of history of medicine, science, technology and military medicine.

研究分野：科学技術史

キーワード：医学史 軍事史 科学史 技術史 博物館学

1. 研究開始当初の背景

米国・国立衛生医学博物館（National Museum of Health and Medicine、以後 NMHM）の前身である Army Medical Museum（以後 AMM）は、南北戦争最中の 1862 年に設立された。開戦当時はまだ、現在軍事医学と呼びうる研究はなされておらず、戦場での負傷兵の運搬や治療、部隊の衛生監督、医薬品の補給・支給などがシステム化されていなかった。そのような状況の中、AMM は軍事医学の研究機関として設立された。AMM は戦地から検体・標本などを収集するとともに、銃創の治療、四肢切断後の経過、伝染病発生の予防・研究などに取り組むようになった。

AMM が設立された 1880 年代はまだ近代医学が発展途上にあり、レントゲンのような診断技術も微生物学も確立していなかった。戦場に限らず、消毒作業もないままに外科医が経験を頼りに手術を繰り返していたような時代だった。AMM は陸軍の下部組織でかつ軍事医学（military medicine）を標榜してはいたが、AMM の研究成果は後のアメリカにおける医学研究全般、特に外科学、病理学、微生物学の発展に大きく貢献した。

南北戦争終了後、AMM の研究対象は病理学、微生物学、解剖学などへと広がり、AMM のコレクションもこれまでのような検体や標本、治療記録に限らず、医療器具の収集にも拡大していった。コレクションの展示と一般公開も行われるようになり、特に戦地から集められた検体や標本は多くの見学者を集めた。1887 年には Army Medical Library and Museum としてナショナル・モール内に移転している。

第一次世界大戦前後より、AMM は敵性国家の医学関連研究の情報収集、分析にも乗り出すようになった。医薬品や戦地で使用する医療器具などの分析・収集を通じ、各国の軍事医学の状況を取りまとめ、米国陸軍組織にフィードバックすることが AMM の新たな役割となった。その使命は第二次世界大戦終結後まで続き、ドイツ、日本関連の医療器具や医薬品などが大量に AMM のもとに集められた。

第二次世界大戦中の 1944 年に、The Army Institute of Pathology が、そして 1949 年に Armed Forces Institute of Pathology（以後 AFIP）が発足すると、AMM は Medical Museum of Armed Forces Institute of Pathology へと移行することになった。AMM の図書館機能は博物館とは切り離され、1956 年に National Institute of Health の元で、National Library of Medicine（以後 NLM）として生まれ変わった。

1971 年には AFIP のあるワシントン郊外の Walter Reed Medical Center への移転した。1989 年に National Museum of Health and Medicine へと名称が変更になり、また 2011 年にメリーランド州シルバースプリングの現在地に移転した¹。

現在、NMHM は以下のコレクションより構成されている。

■ Historical Collections :

南北戦争終了後より収集されたアメリカ陸軍で使用された医薬品、医療器具および同軍が収集した他国の医療関連物全般を収蔵。日本関連の収集品を多数含む。

■ Anatomical Collections :

南北戦争中より収集された人体標本およびそれらに関連する研究業績を収蔵している。

■ Neuroanatomical Collections :

脳科学者 Paul Ivan Yakovlev のコレクションを主体とした、脳科学に関する人体標本や資料に関するコレクション。

■ Human Developmental Anatomy Center :

人類の発達や発生学に関する標本や、資料を収集したコレクション。

■ Otis Historical Archives (OHA) :

上記4つのコレクションに関する記録、関連資料や図書、さらに NMHM に関する歴史的資料を保存するアーカイブス。

研究担当者が2012年から2014年に NMHM を訪れた際に、同館関係者の話から同館がまとめた量の日本関連所蔵品を保有していることが判明した。特に Historical Collection に日本関連所蔵品が多く集まっていた。NMHM の設立経緯を考えると、アメリカ陸軍が敵国であった日本に関して、積極的な収集活動を行っていたことは明らかであった。一方で、NMHM が日本の医学、薬学、軍事医学などの資料を多数有しているものの、これらに関するまとめた調査は行われておらず、所蔵品の詳細や資料的価値、点数などが全く把握されていなかった。目録も作成されておらず、職員が記録として使用するプロセス・レコードのみが残されていることがわかった。これは同館にこれまで日本に詳しいスタッフがいなかったことによるところが大きい。同館が国防総省から受ける予算は減少しており、今後日本関連資料が同館の手によって整理されることは現時点では期待できず、このままだと資料が散逸する恐れがあった。

2. 研究の目的

上記のような状況を踏まえ、本研究の目的を以下の二つに設定した。一つ目が NMHM の日本関連所蔵品全品の現物調査を行うことである。まずは NMHM が何を保有しているのか、その全体像を明らかにする試みである。かつて ANMHM と同一組織であった NLM が保有する日本関連文献に関しては、これまでにまとめた調査が行われている。例えば2007年 - 2010年度科学研究助成事業・酒井シヅ代表「米国国立医学図書館等の所蔵の日本古医書調査・目録・データベースの作成」などがその代表である。これらの先行研究は、米国政府が日本開国当初から日本の医学・隣接分野研究に関する文献や資料を熱心に蒐集していたことを明らかにした。しかし NLM に関する研究が進む一方で、NMHM についてはこれまで調査が加えられておらず、同館が多数の日本関連資料を所有することを指摘する研究も発表されていない。結果として米国所在の日本の医学関連資料に関する研究は文献類に特化し、標本資料 (artifacts) についての調査は手つかずとなっていた。しかし、NLM が貴重な日本の医書などを多数所蔵しているのならば、いわば双子の片割れである NMHM にも同様に日本の近代医学史・科学史研究に有益な資料が保存されていることは想像に難くない。米国内で保存されている日本の医学史・科学史分野でまとめた未整理資料が残されているのは、恐らく NMHM が最後であろう。

本研究の二つ目の目的は、NMHM の所蔵品が今後医学史、科学史、軍事史、など多方面にわたる研究に活用されよう、学術資料として整理・分析を行うことにある。具体的には現物調査の結果をまとめた目録を作成し、NMHM の HP 上で公開することにある。目録は日本語・英語の両語で作成する他、画像データを添付する。写真撮影は NMHM の専門スタッフが行うよう同館の協力が得られた。日本の近代化や科学研究、そして日本の軍事技術研究などに関する資料や情報に対する需要は、国際的な科学史・医学史・技術史コミュニティ内で根強いものがある。その一方で、現状では日本国外では入手の難しい資料などが多いのが事実である。今回 NMHM の所蔵品を研究成果として整備・発表することで、日本で収集された資料を用いた研究が、米国はもちろん国際的に活発化することを期待したい。

3. 研究の方法

本研究では現地調査を5回実施した(2016年7月、2017年3月、2017年7月、2018年3月、2018年

8月)。NMHMの所蔵品は多岐にわたるため、現地調査においては、資料価値が高く、また特に点数が集中している1) AMM 発足当時の軍医総監局図書館時代（開国期～第一次大戦期）の収集品、および2) 第二次世界大戦中および占領期に日本から収集された資料について重点的に調査を行った。同コレクションには、1950年代以降に生産もしくは使用された日本の顕微鏡や医薬品なども多数含まれているが、今回の調査対象には含めなかった。例えば、ベトナム戦争時にも積極的な収集活動が行われたが、その中には日本の製薬会社の生産した医薬品が多数含まれている。

具体的な調査は以下の手順で行われた。

- ① 唯一の記録ともいえる取得時のプロセス・レコードから日本関連所蔵品のリストアップ。
- ② 現物の確認作業の実施。
- ③ 各資料が収集された経緯（入手方法や寄贈者、取得目的など）について Otis Historical Archives などから、補足資料を加えた調査。
- ④ 目録の作成および画像データの準備

①については、研究開始当初プロセス・レコード上では約500点が調査候補に挙がった。このうち200点余りを、日露戦争で負傷兵救護のために来日した Anita Newcomb McGee による記録写真が占めている。McGee の来日記録については、多数の所管や書籍、日記、手紙、新聞記事などが Otis Historical Archives に所蔵されていること（McGee Collection, 1904-1908, OHA227）、さらには2001年に同館にて McGee に関する企画展が実施されており、その時に関連所蔵品の整理が行われていたことから、今回調査は行わず、作成する目録にも McGee 関連の所蔵品は掲載しないこととしたⁱⁱ。また、Historical Collections には終戦時に座間に駐留して原爆の被害状況の調査にあたった Taylor Perry のコレクション（Taylor Perry Collection, OHA272）の内4点が収められている。今回の調査ではコレクションの大半がアーカイブス資料であるため、本調査にはこの4点のみを対象に加えた。

残る300点の詳細を確認してみると、保存状態が悪く既に破棄されていた物、同館に到着したはずだが所在不明になっている物、Captured Japanese Equipment として記録されていたが、実際にはドイツもしくはイタリアからの収集品だった物などが多数発見された。保存状態が悪く破棄された物の一例は、横須賀海軍病院から接收された梅毒に罹患した身体各部のムラージュである。記録によると、横須賀から9点のムラージュが発送されており、Office of Surgeon General を経由して NMHM に9点到着したことになる。しかし後日9点のうち4点が、保存状態が良くないことを理由に既に破棄されていた。さらに残る5点のうち2点の所在が現在分からなくなっており、現時点で3点のみが保存されている。NMHM には他にも日本で作られたムラージュが7点発見され、その中には東京帝国大学医学部にて活躍していた長安周一の作品3点も含まれていた。横須賀海軍病院で接收された全9点のムラージュが現存していれば、戦前に日本で写真技術が発達する前に病理学研究および医学研究で貢献の大きかったムラージュ技術に関して、まとまったコレクションになっていたと考えると非常に残念である。

また、詳しくは後述するが、第二次世界大戦の戦中・戦後に日本を含む世界各地で収集された品々の多くが、1947年～1952年の間に Intelligence branch, Office of Surgeon General、1953年以降は Historical Properties Section, Department of Army から NMHM へ「寄贈」(Donor) されている。一部医薬品などについては、上部組織である AFIP で成分調査などを経てから NMHM に移送されたものもある。そのため、NMHM 到着まで紛失、保存状況の悪化、さらには同じく Captured Enemy であったドイツ、イタリアで

の収集品が紛れ込んでしまうことは避けきれなかったようである。以上のことから、プロセス・レコード上では約 500 点が調査対象となったが、実際に日本関連所蔵品として現物調査の対象の候補となったのは 200 点弱ほどに収まった。

次に②の手順では、①で絞り込んだ現物を同館職員とともに一点一点確認し、収蔵品ごとに、外観（パッケージに記載されている文字情報や刻印）から得られる A. 品目名・商品名、B. 製造時期および製造者、C. 用途（分からなければ外観上の特徴）を記録していった。その上で③の手順を踏み、入手経路や入手次期を確認した上で、できる限りの補足情報を追記した。NMHM の資料だけでは不十分なことも多く、その場合は現地調査終了後に日本において随時追加で調査を行った。特に製造者が不明な物に関する追跡調査に時間を要した。④については、③の現物調査と並行して写真撮影を行い、画像データを作成した。また③で準備した文字情報および追記情報を日英両語で編集する作業を日本で行った。

4. 研究成果

まず、NMHMが有する日本関連所蔵品の入手経路は、大きく3つであることが判明した。一つ目の経路は、主に1) AMM発足当時の軍医総監局図書館時代（開国期～第一次大戦期）の収集品についてである。この時期の収集活動で注目すべきなのが、1865年から1895年まで同館館長を務めたJohn Billingsである。Billingsは自ら精力的に欧州や全米各地へ赴き、医学書や科学書を収集した一方で、世界各国に赴任するアメリカ人医師や科学者らのネットワークを用いて、各国の医学・化学研究に関する図書や標本

(specimen)、人体模型など収集した。日本もその対象一つで、一例として1871年にお雇い外国人として来日したアメリカ人医師Stuart Eldridgeによる寄贈があげられる。Eldridgeは1871年から1893年までの間に、数百点にもものぼる医学書や医学雑誌やその他資料をBillingsに送っていることが記録されている。Eldridgeによる寄贈の多くは現在NLMにて保管されているが、NMHMに残されているものの一つに江戸後期の作である木製人体模型がある。一見すると西洋医学の解剖学を学ぶための人体模型のように見えるが、空洞になっている腹部に収められた各臓器は、伝統的な中国医学の五臓六腑の配置を示している。江戸後期の伝統医学から西洋医学への過渡期を示す、貴重な資料である。

また、1899年には、横浜に住む医師、A. G. Smithから6点の木製の義歯が寄贈されている。Smithは同館に宛てた手紙の中で、日本においてこのような木製の義歯が数少なく珍しくなっているため、AMMの歯科コレクションにぜひ加えてほしいと書き綴っている。彼はまた日本のお歯黒の習慣についても丁寧な説明を加えている。残念ながら現在NMHMでは6点中5点のみが保存されており、1点の行方が分かっていない。

Billingsは協力の対価として協力者へ現金を支払ったり、場合によっては最新の医学書などを本国より送ったりしていた。遠く本国を離れ、医学研究の僻地にいた協力者たちにとっては、Billingsから得られる対価が最先端の研究成果に触れる貴重な機会だった。Billings と協力者のとのやり取りの多くはOtis Historical Archives に残されている。

次に、2)第二次世界大戦中および占領期に日本から収集された資料には主に二つの入手経路があった。上述したように1947年～1952年に行われたIntelligence branch, Office of Surgeon General（1953年以降はHistorical Properties Section, Department of Army）からの大寄贈である。終戦直後からアメリカ軍は戦時中の日本の医学研究および医療技術に関する大規模な調査を行っている。このうち本研究が参考にしたのが、1945年12月に作成された*Final report of the Committee for the Technical and Scientific Investigation of Japanese Activities in Medical Sciences*ⁱⁱⁱ（以後*Final Report*）および1946年1月から順次作成された

Japanese Medical Materials^{iv} (副題: *Inventory Report*、以後 *Inventory Report*) である。これらの調査関連の収集資料が後にアメリカへ運び込まれ、その中の博物的価値の高い物が調査終了後に NMHM に移管されたと考えられる。例えば、*Final report* は伝染病研究に強い関心を示していたが、伝染病の一つとして取り上げられていたのが、長野県を中心に発生した日本特有の日住血吸虫症だった。当時この特効薬であった萬有製薬のスチナブール注射薬が、NMHM に収蔵されている。また、*Inventory Report No. 205* において写真とともに詳細が報告されている Military Dog Operation Kit と同じものが NMHM に収蔵されている。このどちらも Intelligence branch からの寄贈である。

一方、Intelligence branch から寄贈された所蔵品については、そのほとんどについて元々の詳細な収集時期や収集場所が記録されていなかった。特にアメリカ陸軍にとって資料的価値が高いと判断されていない場合、もしくは資料的価値が高くないことが後ほど判明した場合は、詳細な記録が付されないまま NMHM へ移管されていた。

2) に関する二つ目の経路は、退役軍人、もしくはその遺族などからの寄贈である。退役軍人からの寄贈は、終戦直後ももちろんのこと現在においても続いている。NMHM は AMM として設立した当時から一貫して陸軍組織の一部であり、陸軍病院や医官だけではなく多くの従軍兵士が資料収集に貢献してきた歴史を持つ。アメリカ陸軍というある意味世界で最も強靱なネットワークに支えられた博物館であったと言える。このような歴史的背景の下、第二次世界大戦に従軍した兵士や医官などが、日本での従軍中に入手した多くの品を、本国に帰国後 NMHM に寄贈した。さらには元兵士たちが年老いて亡くなった後、その遺族もまた遺品の寄贈先として NMHM に思い当たったのである。このような所蔵品はまさにパーソナル・ヒストリーとも言えるもので、詳細な記録とともに NMHM に寄贈されている。1946 年に寄贈された大日本帝国陸軍衛生材料廠の刻印の入った携行用歯科治療具もその一つで、これは戦時中に捕虜となった歯科医官 (Dental Corp Officer) が解放後にアメリカに持ち帰ったものだった。

5. 主な発表論文等

本研究の研究内容は NMHM のホームページ上で、「日本関連所蔵品目録」として 2019 年に公開予定である。目録は日英両語で作成し、画像データを添付する。

ⁱ AMM から続く NMHM の歴史については、以下が詳しい。Robert S Henry, *The Armed Forces Institute of Pathology: Its First Century 1862-1962*, Office of Surgeon General, Department of the Army, 1964; Wyndham D Miles, *A History of National of the National Library of Medicine: The Nation's Treasury of Medical Knowledge*, National Library of Medicine, 1982.

ⁱⁱ 企画展の詳細については、Frederic A Sharf and et al., *American Angels of Mercy; Dr. Anita Newcomb McGee's Pictorial Record of the Russo-Japanese War*, National Museum of Health and Medicine 2001.

ⁱⁱⁱ 作成者は United States Army Forces, Pacific Office of the Chief Surgeon, Committee for the Technical and Scientific Investigation of Japanese Activities in Medical Sciences である。Committee は 3 ヶ月にわたり日本各地にある 31 の大学、民間研究機関、軍付属研究施設の約 280 名以上の研究者を対象に調査を行った。*Final Report* は NLM デジタルコレクションで閲覧が可能である (<https://collections2.nlm.nih.gov>)。

^{iv} 作成者は US Army Technical Intelligence Center Tokyo, Medical Analysis Section, 5250th Technical Intelligence Company と記載されている。NLM は *Inventory Report No.1* から No. 250 うち、78 冊を保存している。しかし No. 250 が最終号なのかは不明である。NLM が所蔵する *Inventory Report* 78 冊は、同館デジタルコレクションで閲覧が可能である (<https://collections2.nlm.nih.gov>)。